

# 日本の歴史や文化を再認識

南カリフォルニア  
南加岐卓県人会100周年からの風

5

大商(県立大垣商業高校)を最後に教職から退き、渡米したのは1992年2月。どうしようもなく演技がしたく、演技を通して人種・文化の壁を越えた何かを共有したいという気持ちで全てでした。

LAに来てすぐに暴動と地震があり、波乱に富んだスタートとなりました。暴動でアパート横のヤシの木に火がつき、屋根の上って消火作業をしたり、地震では壁に12箇所亀裂が入ったりと、大変な思いをしたものです。

そんな中、演劇を学び、舞台上に立ち、テレビや映画に出演し、あっという間に19年が過ぎていきました。当初は自分の志に反して、白人中心の映画業界に何か裏切られたような気がしたり、演技についても、日本語を英語に換えるだけのようになんか甘く考えていた自分がいきました。

その当時、ショー・コングさんから「英語を習得するのに10年位はかかる」と言われましたが、まさにそのとおりでした。

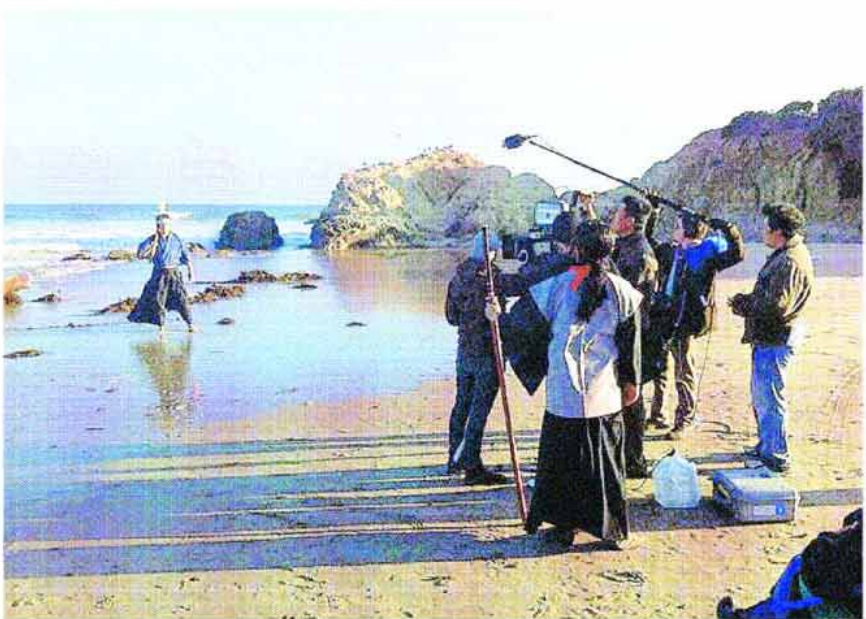
日頃は舞台や映画のオー

ディションを受け出演し、またオーディションを待つという日々ですが、先月、中国系の若手監督の映画「ソードマン」で主演の宮本武蔵を演じました。巖流島の場面は、LAの北にある岩と砂浜の美しいビーチで撮影。外国人の若い監督が、日本の英雄や文化に興味を持ち、撮ってくれる事をとてもありがたく思います。役作りのため、侍や日本人や日本の歴史を調べたり考えたりすることも多く、日本文化の素晴らしさを再認識しています。

こちらでは、街のいたる所で米国旗を目にし、子供から大人まで胸を張って国歌を歌う人々を見ていると、戦後、日本人だけのせいではないにしろ、西洋化した日本が悲しく思え、日本にいた時はやはり平和ボケしていたのだと、こちらに来て初めて感じました。

若い人達には、長い歴史と豊かな情緒によって育まれた、素晴らしい日本の心目を向けてもらい、日本人としての自信と誇りを持って欲しいものです。自分が文化的に豊かな国で生まれ育ったことに、ただただ感謝しているこの頃です。

(文・井上英治)



映画「ソードマン」の撮影風景



いのうえ・えいじ 1992年に渡米、ロサンゼルス在住。「Las

t Samurai

rai」など

メジャー、イン

ディイ含め

40本以上の映

画に出演。日本向けコマーシ

ヤルでは「Coca Col

a」「KFC」など。テレビ、舞台でも活躍。46歳。

岐阜新聞130年 ◆ ふるさと再発見シリーズ